

令和4年度第1回 山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会議事録（要旨）

日時

令和4年6月1日（水） 午後2時00分～午後3時30分

場所

山県市役所3階大会議室

出席者

委員	早川 三根夫	学識経験者
	山崎 通	市議会議員
	高屋 重義	市自治会連合会が推薦する者
	梅田 修一	市自治会連合会が推薦する者
	神原 義典	市PTA連合会が推薦する者
	上野 泰英	市PTA連合会が推薦する者
	岩田 陽歩	市立保育園長会が推薦する者
	佐藤 千秋	市立保育園長会が推薦する者
	奥田 真也	市立保育園長会が推薦する者
	高橋 広美	市立小中学校長会が推薦する者
	石樽 千恵	市立小中学校長会が推薦する者
事務局	教育長	服部 和也
	学校教育課長	森川 勝介
	学校教育課課長補佐	渡瀬 和則

欠席者

委員	山口 一美	市自治会連合会が推薦する者
	松井 元成	市PTA連合会が推薦する者
	伊藤 泰介	市立小中学校長会が推薦する者

日程

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 前回議事録の確認
- 5 議事 論点の整理について
- 6 次回の委員会予定

日時 令和4年7月21日（木） 午後2時～午後3時25分

場所 山県市役所3階 大会議室

- 7 閉会

会議の概要
別添のとおり

1 開会

午後2時00分開会

2 委員長挨拶

会議は3回目になり、理解も徐々に深まってきている。新しい4名の方は、新たな見方を生み出すことにもなるので、新鮮な感覚で遠慮なく発言してほしい。

3 委員紹介

(略)

4 前回議事録の確認

(略)

5 議事 論点の整理について

- 委員長 現状を正しく認識し前年度の検討事項を再確認するという趣旨で、本日提出された資料について事務局から簡単に説明願う。
- 事務局 説明(略)
- 委員長 ここまでで質問があればうかがいたい。
- 委員 「3 社会性を学ぶという観点」の、小規模小学校、中規模小学校の定義について、具体的に説明願う。
- 課長 小規模小学校というのは、1学年単学級の学校、中規模小学校というのは、1学年2学級ある学校。
- 委員 「4 学力の定着という観点」の、「正答数上位30%、下位30%」について説明願う。
- 課長 県全体で、上位30%、下位30%は何問正解したのかという基準が決まり、例えば上位30%は15問中12問正解したという基準となれば、各学校で15問中12問正解した児童の割合を算出する。
- 委員 「3 社会性を学ぶという観点」の、小規模小学校、複式学級のある小学校は不登校児童数の割合が少ないということはわかるが、中規模小学校の不登校児童数の割合は。
- 課長 3年間分のデータなので年度によって多少の増減はあるが、約1.5%。
- 委員 「中学校における不登校生徒のうち、小規模小学校卒業生の割合は少ない」ということは、中規模小学校卒業生の割合は多いということか。
- 課長 一番大きい中学校を例にすると、不登校生徒全体の8割から9割が中規模学校卒業生、残りの1割2割程度が、小規模小学校卒業生か転校生となっている。
- 委員 今朝、中学校の登校を見て、みんな元気に登校している印象を受けた。時間ギリギリになると元気なさそうな感じの子が目立ち、1人だけ校門近くで泣き出す子がいたが、1日授業を受けてもらえれば不登校は少なくなる。
- 委員長 不登校というのは大きな問題で、適正規模を考える上で一つの重要なポイントになる。ここまでで、各学校の努力でかなりいいパフォーマンスが出されている

ということがわかる。だから現状でいいという意見、それでも将来を見据えて何か動きが必要という意見、いろいろあると思うが、今の思いを語ってほしい。

- 委員 児童のことだけを考えれば統合がいいと思うが、社会性の観点の資料を見ると小規模でもいいとも思うので悩む。しかし、このままの状態では児童生徒数が減っていくので、小中一貫校がいいと思う。
- 委員 校区の子どもたちがいつも気持ちよく挨拶してくれる姿を見ていると、小規模校ならではのきめ細かい指導がされていると直に感じる。「社会性を学ぶという観点」の中で、小規模小学校では不適應を起こす児童は少なく中学校の環境にも順応しているということだが、ある程度の人数がいて切磋琢磨して学ぶということが子どもの健全な育成につながると思うので、統合推進が自分の考えである。
- 委員 卒業生としては母校を残してほしいが、小さい学校を維持することは大変だと思うので、時代に合わせた動きが必要になってくると思う。資料の「5 地域の教育力という視点」「6 時代が求める教育」などは、山口市の特徴を生かしたいい取り組みだと思うので、こういったことを残しながら、統廃合が必要だと判断されるなら必然的にそうなるべきだと思う。今は、児童は校区のことを学んでいるが、隣の校区や他の地域のこと、山口市全体のことを一緒に学ぶことも、山口市の子どもたちにとってはいい教育になると思う。地域も一体となってオール山県でやっていけたらいい。
- 委員 地域で学んだり地域の方々と交流したりという面を見れば、今の規模を維持するのがベターだと思う。しかし、今はそれでもいいかもしれないが、5年10年先まで考えると、この考えを変えないといけないという思いもある。地域も周りが高齢の方ばかりになって、田畑も5年10年先は管理できなくなって荒地になってしまうだろう。私も、自分ができるうちは田畑を維持するが、子どもにまで託せるのかと悩む。現状はよくても、何らか形を変えていくべきだと思う。
- 委員 近所の子がほぼ不登校状態で、本人も保護者さんもととても苦しんでいる。不登校を初めて目の当たりにし、すごく大きな問題だと感じている。小規模校や複式学級にリスクがないのであれば、急いで統廃合せず慎重であるべきではないかと思う。小中一貫校も反対ではないが、話し合いを重ねて次の結果を出していったらいいと思う。
- 委員 いじめや不登校は大きな問題で、慎重に進めなければならないと思うが、1学年が1人や2人になったときに考えるのでは遅いと思うので、複式学級があるところだけでも見直すべきではないか。1学年20人程度が理想だと思う。
- 委員 このまま議論していくと、なんとなく統廃合に進んでしまうのではないかと思い、いろいろ考えた。保育園の保護者にとっては、地域の小学校に通うことが一番大事ではないかと思う。そこで例えば、学区外から児童を呼び込むことができる小規模特認校という制度を作って、今の小学校を残すことができないか。子どもが

不登校になってしまった場合も、学区外の違う学校に通うこともできるのではないかな。

中規模校を起点に分校にすることもできるのではないかな。例えば、いわ桜小学校を美山小学校の分校とすることで、複式学級の解消ができるかもしれないと思う。ただし、教員が減ってしまえば元も子もないので、制度をよく調べないといけない。統廃合する条件となる児童数の下限を決めておくことも必要だと思う。現状、オンライン授業や合同授業を行っているので、それをうまく活用して、今の小学校の規模を維持できる可能性があるのではないかな。

岐阜市に開校した不登校特例校である草潤中学校のキャパが足りないなので、自然豊かな山県市が不登校特例校を設置すれば、不登校問題の改善が図れるのではないかな。ただし、不登校特例校は好きな時間に自由に登下校ができ、バスがないと保護者の負担が増えてしまうので、バス路線の便利な高富地域での設置になると思う。

増えている小中学校の空き教室に、シェアオフィスというかたちで企業が入ることもできるのではないかな。地域の高齢化が進んで小学校の見守りも困難になっているので、企業の方々に見守りをしていただくということができる。

こういう新しい山県市モデルを作れば、適正規模の問題の解決の糸口になるのではないかなと思う。

できれば、地域の皆さん、特に複式学級や小規模校の地域の皆さんが、学校を残してほしいと思っているのか、それとも統廃合やむなしと思っているのか、意見を聞いてみたい。

- 委員 児童生徒数の減少により教師も減ってきている。子どもたちを育てるには教師も育たなければならない。分散している教師の力を集結することで、子どもたちの学びがより伸びていく可能性を感じる。美山地域3校を小中一貫校にして、ひとりの校長のもと教師が一丸となれば面白い学校ができるのではないかな。
- 委員 ユニセフの調査でも、自信をもっていない子どもがいるということは山県市だけでなく日本の子どもたち全体の傾向である。山県市は、小規模校ならではの特色ある教育活動によって、社会性の情操もうまくできていると感じている。適正規模については、今の小規模小学校に複式学級ができてしまう令和6年がひとつの山だと思う。
- 委員 皆さんのご意見を伺うと、中規模がいいという意見が多いと感じる。その理由は、不登校やいじめなどの問題を大勢で見れば解決できるということだと思う。最近、小学校中学校の時にいじめにあって、大人になってからも世間に怯えて仕事もできないという人の話を聞いた。不登校になると、学校卒業後も社会生活が送れないこともあると痛感した。今、相談されても我々では対応できないので、子どものうちに、みんなで一致団結して解決しなければならないと思う。

- 委員長 皆さんの意見を伺った上でほかに意見があれば。
- 委員 中規模校から小規模校に転校した子がいる。その子が楽しく学校生活を送ることができればいいが、保護者はそこに住んでいるのか、通学や地域の行事への参加など、他での事例があれば教えてほしい。山県市で不登校は少なく自分の身の回りにもいない。反対ではないが、不登校特例校を設置するほど必要性があるかどうか疑問。
- 委員 小規模特認校は、魅力的な教育環境が整っている学校であれば県外からも集まる。ただし、通学は問題となる。不登校特例校は、市外からも通うことができるので、山県市だけでなく周辺の市町も巻き込むことになる。
- 委員長 私から若干説明する。学校、学級は、そこに住民票のある子どもを集めて35人以内なら1学級、36人以上なら2学級になるという決まり。法律で学級数によって配置する教員数が決められているので、35人か36人かは、学校にとって非常に大きな問題である。住民票があるというのが大前提だが、例えば、いじめが原因で指定された学校へ通えなくなったから隣の学校へ通うという例外的な措置として指定校変更がある。それをもっと拡大し通いたい学校を選べるように校区の指定を外すという考え方がある。近隣市で実際にやってみたところ、それほど動きはなく、やはり多くの親は指定された学校へ通わせたいということだった。例えば、小規模の学校へ自由に通えることが必要だとなれば、市で条例を作って指定を外すという作業が必要になる。不登校特例校については、国に申請して認めれば設置することができる。通信制や夜間中学など、いろいろな形態の学校ができています。前回までは、学校を残すか義務教育学校にするかという議論だったが、実はもっとほかに多様な学びの場があって、今日はその提言があった。

不登校の率は通常2%ほどで、山県市の小規模小学校と複式学級のある小学校の1%は低い。しかし、現実には不登校と認定される欠席日数に達していないだけだったり、登校しても保健室に行ったりという隠れた不登校は多い。一般的な子どもが大人になってから引きこもりになる確率よりも、小学校から高校の間に不登校や高校中退の経験をした子どもが引きこもりになる確率のほうが、約17倍高いと言われている。1%の17倍は17%だから残りの約80%の人は、中学校で不登校になっても乗り越えて社会的に自立できているということになる。不登校の子を無理やり学校に来させるのではなく、たとえ不登校になったとしても、その子が将来、社会的に自立させるための支援をするというのが今の教育のあり方になっている。

点数に現れる認知能力ではなく、それ以外の「最後までやりきることができる」「友だちと仲良くできる」という人間の生きる力である非認知能力が重要であり、非認知能力を付けるためには、地域の教育力が非常に役に立つ。認知能力と非認知能力を併せもって子どもの成長を見守っていこうというのが最先端の教育のあ

り方である。

今の山県市の学校教育は、非常に満足度が高くて地域と一体となった教育がなされているということであるが、保護者のアンケートでは統廃合が必要という考えもあり、ずれがあることを理解しなければいけない。小規模校は適応性が高いように見えるが、いったん不登校になると、もとの学校に復帰するのは困難。

教育行政的な適正規模からこの問題を考えるのもひとつだが、子ども一人ひとりにあった多様な学びを選択できる場所を提供するというのも重要。小規模校の良さの個別指導と中規模校の良さの集団として学びの両方を取ることはできないものか。技術的、法律的に困難かもしれないが、山県市ならではの方策を研究する価値はあると思うので、次回、事務局が示してくれることを期待する。

○教育長 とても難しい宿題をいただいたが、皆さんから御意見をいただきながら考えていきたい。あと3回で答申がまとまるといいと思う。

6 次回の委員会予定

(略)

7 閉会

午後3時25分閉会

上記議事録(要旨)は正当であることを認めます。

山県市立小学校及び中学校適正規模等検討委員会委員長 早川 三根夫